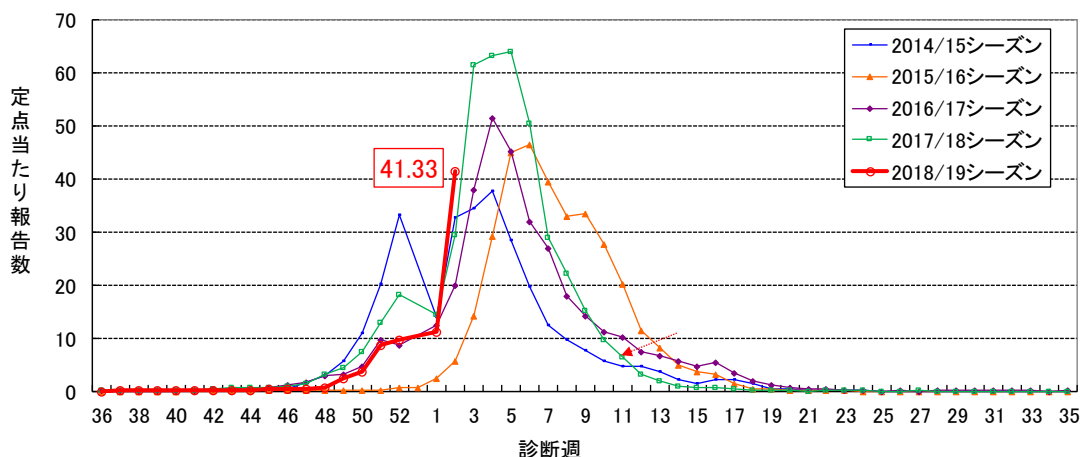


【今週の注目疾患】

【インフルエンザ】

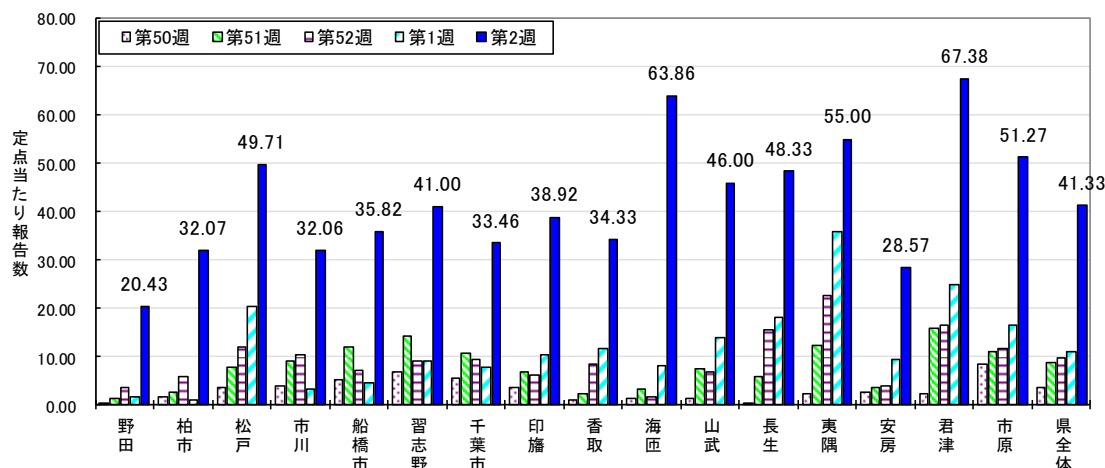
2019年第2週に県内定点医療機関から報告されたインフルエンザの定点当たり報告数は、定点当たり41.33（人）となり、国の定める警報基準値（30）を超えた（図1）。

図1: 県内定点医療機関から報告されたインフルエンザの定点当たり報告数の推移（シーズン別）



県内 16 保健所管内（千葉市、船橋市および柏市含む）において、報告の多い上位 3 保健所管内と定点当たり報告数は、君津保健所（67.38）、海匝保健所（63.86）、夷隅保健所（55.00）であった。県レベルの定点当たり報告数 41.33 を超える保健所管内は、上記 3 保健所管内の他、市原保健所（51.27）、松戸保健所（49.71）、長生保健所（48.33）、山武保健所（46.00）であった（図 2）。

図2: 直近5週のインフルエンザの定点当たり報告数の推移(保健所別)



2019年第2週の年齢群別報告割合は、5～9歳（21.6%）、0～4歳（15.9%）、10～14歳（14.8%）で高く、2018/19シーズン全体（2018年第36週～2019年第2週まで）では、5～9歳（23.9%）、0～4歳（15.4%）、10～14歳（15.2%）等となっている。過去シーズンの同期間（第36週～第2週）と比較すると、昨シーズンよりも成人層の報告が多くなっている（表1）。

2019年第2週の小児科・インフルエンザ定点医療機関の協力による迅速診断結果の報告は、8,170例中A型8,102例(99.2%)、B型39例(0.5%)、A and B型1例(0.0%)、A or B型28例(0.3%)であった。2018/19シーズン合計では、15,774例中A型15,616例(99.0%)、B型112例(0.7%)、A and B型4例(0.0%)、A or B型42例(0.3%)となった。

表1：県内定点医療機関から報告されたインフルエンザ患者の年齢階級
(各シーズン第36週～第2週に報告された患者)

	2018/19	2017/18	2016/17	2015/16	2014/15
0～4歳	15.4%	15.5%	13.6%	18.5%	13.5%
5～9歳	23.9%	27.7%	17.2%	28.5%	25.4%
10～14歳	15.2%	15.2%	16.4%	10.4%	20.3%
15～19歳	5.1%	5.0%	8.7%	3.6%	5.1%
20～29歳	7.6%	5.8%	9.6%	7.6%	7.2%
30～39歳	8.6%	7.4%	8.8%	11.6%	9.3%
40～49歳	10.2%	9.7%	9.9%	9.6%	8.8%
50～59歳	6.1%	6.0%	6.2%	4.4%	4.6%
60～69歳	4.1%	4.2%	4.6%	2.9%	2.9%
70～79歳	2.5%	2.2%	3.2%	1.4%	1.9%
80歳以上	1.3%	1.2%	1.9%	1.3%	1.2%